Report

身近な自然の観察・記録活動
石神井川緑道版

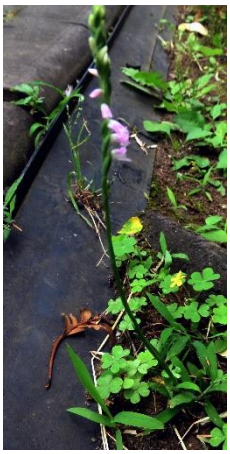
2021.6.24

一人ひとりの自主活動　だれでも参加できます
活　動：月２回(第二木曜日・第四金曜日)10：00 より（雨天中止）
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと　→　金沢橋
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫　com-matchan@hotmail

７、８月の石神井川観察は、7/14（木）、7/29（変則で第５金曜日）、8/11（木）、8/26（金）
9:40JR 社宅前街路の観察　10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

全エリアで ネジバナ 大繁殖

これは喜んでよい現象なのか？



6/20 付けの赤塚公園モニタリングレポートでも「ネジバナがあちこちで咲いています」と報告しましたが、6/24 の石神井川緑道では赤塚公園なんて、しょぼいショボい！４つのエリアのすべてで 10 数か所にこれでもかこれでもかの「ネジバナ・ラッシュ」。これまでは、第２エリアで４株観察されるのが精いっぱいだったのに、これは何なんだ！

去年まで咲いていた株に実った種子が今年はこの緑道のあちこちに拡散してこうなったのでしょうか？　いやいや、ネジバナは土壌にラン菌が繁殖していないと咲きません。素人考えですが、もともとネジバナの種子か根が土の中に眠っていて、それがラン菌の繁殖により、急に茎を伸ばして花を咲かせたと考えるのが普通でしょう。あとは植物学者さんにお任せするしかないのですが、環境の変化が最大要因ではないかと思います。梅雨と猛暑が一緒にやってきている高温多湿の今年。気候と関係があるような気がします。

ネジバナはそれほど貴重な野草ではないのですが、花の形と色が素敵なので、見つけるたびに大喜びしていたのですが、こんなにあちこちに咲いていると、不気味に感じられてしまいます。

作り替え前の遊歩道に芽生えた野草　前回と同じ場所で草調べ

←帝京大学附属病院の西側、石神井川沿いの道路の改修で、根こそぎ掘り返された遊歩道に野草が復活してきました。

前回 6/9 には 22 種が確認できましたが、6/24 は 28 種で、少し増えました。**ヤブガラシ**、**タンポポ交雑種**、**シロツメクサ**、**ノゲシ**、**コヒルガオ**、**イネ科の仲間？**、**オッタチカタバミ**、**カタバミ**、**ウラジロチチコグサ**、**アレチノギク**、**チチコグサモドキ**、**イヌムギ**、**スズメノカタビラ**、**エノキグサ**、**ヨモギ**、**ヤマグワ**（木本実生）、**アズマネザサ**、**ネジバナ**、**ツユクサ**、**キュウリグサ**（展葉）、**カモジグサ**、**セイタカアワダチソウ**、**オカメザサ**、**イヌホウヅキ**、**ムラサキカタバミ**、**ブラジルコミカンソウ**、**カヤツリグサの仲間**、**キク科の仲間？**

キク科、イネ科、カヤツリグサ科は花が咲いていないと同定が難しいのとアズマネザサなど前回見逃した種などを今回カウントしているので正確な対比はできないのですが、前回観察できて今回は見られなかった種が８種ありました（アカミタンポポ、ムラサキカタバミ、アメリカフウロ、オオイヌノフグリ、ギシギシ、ヒメジョオン、マメグンンバイナズナ、クサイ）。今回確認された種が 29 種ということは、この場所のこの 1 か月ほどの期間だけで 37 種もの植物が入れ替わり立ち替わり生きているということ。生物多様性を大事にするということは、それらのすべてを大切な生き物として認めることなのです。だって、ほら、こういう草原の中に、蝶とかトンボがちゃんと生きているじゃないですか。（右写真２枚）

「ちょうどいい具合の草原ですね」と気持ちよく歩いていたのに「どんな計画で公園の管理をしているのか？」のひどい剪定

←草丈があまり高くない野原。ニワゼキショウがたくさん咲いていて、お仲間の一人が「このくらいがちょうど良いですね」と気持ちいい。しかし、その先に行くと、今度は別のお仲間が「なんだこれは！　いったいどんな計画で公園管理しているのか！」と叫びました。右の２枚の写真を見れば、それも無理ないこと。サツキツツジもクチナシも丸裸に剪定されて、素心蝋梅（ソシンロウバイ）というロウバイの栽培品種は根元から伐採されていました。「赤塚植物園では囲いの中で大事にされているのに・・・」と悔しがることしきり。暮らしの中のみどりをどう扱うのか、考え方の根本から見直す必要があります。何年もかかるけれど。